

二日で戻る (Two days and we will be back / يومين وبنرجع)

「二日で戻る」これは2023年10月15日金曜日、ガザ中部のデイル・アル・バラ地区への避難民として家を出る際、私が家族に言った言葉です。そして、それは私の祖父であるハッジ・ファレスが1948年のナクバにより故郷であるディムラから移住しなければならなかったときに、私の両親に言った言葉と全く同じでもあります。私の父と母は、亡くなるまで60年以上もその言葉を繰り返しました。

「二日で戻る」……私の父は、ディムラの家の中庭に植えられたシカモアイチジクの木について、そしてその実がどんなに甘く美味しかったか、私によく話してくれました。その実は一年中絶えることがなく、人生でこれ以上美味しいものはない。父はそれを思い出してそう言っただけで、ため息をつきました。その木はまだ植えられているのか、それとも父たちが町を出たときに彼らの魂が根こそぎにされたように、占領によって根こそぎにされたのでしょうか？私の母は町のすべての道、角、家、家族を思い出していました。母は、家に戻った時に取り出せるようにと、貴重な食器をイチジクの木の下に隠しておいていました。

ナクバから30年経ったある日、親戚が数年ぶりにサウジアラビアから帰国し、今はエレズと呼ばれているディムラを訪れたいと言いました。私は彼と一緒にディムラに行き、父と母も連れて行きました。そこに到着すると、私たちには何も見えませんでした。何も無い土地でした。そこに広がるのは廃墟でした。みんな、その場所の詳細を思い出そうと何度も繰り返し辺りを見渡しました。積まれた石、家の残骸、父のイチジクの木はありませんでしたが、いくつかの木々からその場所の詳細が分かりました。みんなは村の地図を描き始めました。ここに井戸があり、イチジク木がそこにあり、そのユーカリの木は私たちの家の前にあった。だから、ここが、私たちの家。

母は驚き、目に涙をためながらイチジクの木場所に走ってゆくと、素手で地面を掘り始めました。あの日に埋めた食器を探しました。彼女は架空の木の周りを何箇所も何箇所も場所を変え掘り続けました。驚き、涙、悲痛、痛み、そして沈黙がその場を包み込みました。私はそこに立って彼らを眺めていましたが、彼らが受けた大惨事の程度をわかってはいませんでした。父が木を見つけられなかったこと、母が食器を見つけられなかったことだけがとても悲しかった……。私たちはバスに乗って家に帰りました。父はイチジクの木について話し続け、母と私は彼女の料理について話しました。

現在、私たちはデイル・アル・バラ地区で109日間難民生活を続けています。最初の数日間、戦争の災害から逃れることが最優先で、戦闘や衝突の現場から離れるよう必死で努めました。数か月後、私たちは帰還の夢を見始め、家の細部を思い出し始めました。スマートフォンで撮った家の写真を見返します。台所の細部や、寝室や私たちが眠っていたベッドの細かな様子が見えるまで写真をズームして見ます。人が枕とベッドでしか休めな

いこのの意味を知ります……。私たちが今滞在している友人宅のバスルームの写真は撮っていません。彼の大きな家は約130人が生活していますが、水の供給が難しいため私たちは水の入ったバケツを持って列に並び、トイレに入ります。私たちは昔のトイレの使用法に戻りました。バスタブの使用は、戦争が始まってから今まで、そこに横になることが私たちの夢の1つになっています。避難民の中にきちんとシャワーを浴びている人はいないでしょう……。私たちは皆、バケツに水を入れて運び、少量のシャンプーで体を洗います、もしあればですが……。

「二日で戻る」……戦争の日々は長く、私たちは毎日ニュースを追いかけ、停戦の詳細を見守り、家に戻る夢を見ていますが、それは少しも実現していません。避難民にとって、停戦は家に戻ることを意味します。たとえそこで死ぬことになっても、私たちは幸せに死ねます。

長い時間が経ち、時間の流れが遅くなり、日が長くなり、夜が長くなりました。私たちの日々は常に、家族に食事を提供することと、家に戻るのを待つことという、この比類ない二つを中心に回っています。

今日は昨日とは違います……「2日で戻る」……父が私にその言葉を言っていたとき、私は自らに問いかけました。彼らはそんなにも愚かだったのか？これが占領であり、これが戦争であり、帰還には時間がかかることを気付かなかったのか？と……私も同じ罠に落ちたのか？それとも私たちはすぐに家に戻れるのか？何より重要な質問は、家がまだ建っていて、街がまだそこにあるのか？ということ。

見聞きした破壊の酷さのせいで、ガザ市に戻る日が怖くなることがあります。私はガザを愛しています、美しい私の街、私はそれを恋しく思います、キャンプの道や路地、私が育ったビーチキャンプ、漁港や海岸線、無名兵士の広場、パレスチナ広場、オマー・アル・ムクター通り、アル・ナセル通り、アル・タラティニ通り、フィラスマーケット、シェイク・ラドワン、金曜市場……私たちは確実に戻ります、ガザよ。私たちは確実に戻ります、父よ。

二日で戻ります……。

2024年1月31日

アリー・アブー・ヤースィーン

訳 藤田ヒロシ

(2024.8.30 改定)